

プロジェクト課題活動実績

課題名: 玖西地域における土地利用型農業を主体とした担い手の育成

岩国農林事務所農業部 チーム員: 白石、村上、吉永、兼常

〈活動事例の要旨〉

玖西地区農業の振興計画となる「ビジョンマップ（玖西地区農業の振興計画）」の作成に向け、関係機関と玖西地区が抱える課題や問題を整理するとともに、今後の活動展開に対する認識の共有を図った。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題

○ 「ビジョンマップ（玖西地区農業の振興計画）」の策定 ○ 土地利用型作物の定着

(2) 目標（平成 28 年度）

○ 多様な担い手（人・農地プランの中心経営体）の経営面積 320 ha

○ 小麦の出荷量 30 t

2 活動の内容

- (1) 生産出荷計画書（兼）水稻共済細目書のデータを集計等し、その結果を玖西地区協議会で関係機関と協議することで玖西地区の現状や課題を整理した。また、集計結果に基づき、面積及び栽培作物を考慮して中心経営体候補者を選定し中心経営体へと誘導した。
- (2) 集落営農を育成するため組織化に向けた勉強会を開催した。また、法人経営の安定を図るため、経営分析を踏まえて酒造好適米や飼料用米、小麦を加えた複合経営を誘導した。
- (3) 玖西地区で推奨する営農モデルの技術的な課題を解決するため、既存品目（小麦、酒造好適米、飼料用米等）の安定生産に向けた技術指導を行うとともに、新たな品目の定着を図るため自然薯とりんどうの実証ほ等を設置した。

3 活動の成果

- (1) 玖西地区の農業振興の方向性を記載した「ビジョンマップ」のたたき台を作成した。ビジョンマップには玖西地区で推奨する「水稻+α」の営農モデル等を記載する予定であるため、協力いただいた農家の確定申告データ等との比較検討も行った。
- (2) 中心経営体への誘導等を行った結果、高齢化等で辞退する者がいたものの、前年より 5 名増え集積面積は 2.1 ha 増加した。
- (3) 周東町川越での勉強会は「農業情報講演会」と題して行われ農業者 34 名が参加。今後、集落営農についての取組みが期待される。
- (4) 一法人については、既存の水稻+作業受託に加え大豆栽培を再開、酒造好適米と飼料用米が定着。小麦の作付けも行うなど経営の複合化が強化された。
 - 多様な担い手の経営面積 316 ha、小麦の出荷量 10 t

4 今後の普及活動に向けて

28年度に策定する「ビジョンマップ」は、より現実的な計画とするため、次年度は広く農業者の意見を聞き、計画に反映させる予定である。将来的には再生協で整備するマップソフトを活用することで、中心経営体への農地集積を進め、玖西地区の農地を維持できる仕組みの構築を目指している。



川越地区での農業情報講演会



小麦の栽培状況（周東町）